

学術院共通専門基盤科目

学術院共通専門基盤科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OAA1101	法文献学	1	1.0	1・2	春A	集中		岡本 裕樹, 渡邊 絹子, 川村 藍, 弥永 真生, 潮海 久雄, 大淵 真喜子, 平嶋 竜太, 川田 琢之, 木村 真生子, 藤澤 尚江, 小林 和子, 本田 光宏, 岡田 律子	本講義では、法令・判例・文献のリサーチ方法およびリサーチに必要な基本的な知識を正確に身に付けることができるよう、各ツールを比較・評価しながら例題を混ぜて講義する。リサーチのほか、先行研究の引用作法についても解説する。	01LA001と同一。 4/1, 4/2, 4/3, 4/5
OAA1102	ビジネス法入門	1	1.0	1・2	通年	応談		岡本 裕樹, 潮海 久雄, 大淵 真喜子, 平嶋 竜太, 藤澤 尚江, 小林 和子	ビジネスをはじめとした多様な社会現象から解決されるべき法的課題を発見・設定して、自らの視点で研究を遂行する基礎となる、法的専門知識と思考方法の基本及び研究作法を体得する。	
OAA1501	トップレクチャーI	1	1.0	1・2	夏季休業中	集中			民間企業、教育・研究機関、官公庁、国際機関等のトップ・マネジャーを講師に迎えて、現実の企業や社会システムにおける諸問題の解決方法やトップマネジメント戦略の構築並びに実践方法などについての講義を行う。 他授業や研究活動において修得した学術的な知識や知見と、本講義で提示されるトップ・マネジャーの現場からの知識や経験を高度に融合させることで、自らの多角的な思考能力や問題発見・解決能力を涵養することが期待される。	西暦偶数年度開講。 01KA101と同一。
OAA1502	トップレクチャーII	1	1.0	1・2					トップレクチャーIに続いて、民間企業、教育・研究機関、官公庁、国際機関等のトップ・マネジャーを講師に迎えて、現実の企業や社会システムにおける諸問題の解決方法やトップマネジメント戦略の構築並びに実践方法などについての講義を行う。 他授業や研究活動において修得した学術的な知識や知見と、本講義で提示されるトップ・マネジャーの現場からの知識や経験を高度に融合させることで、自らの多角的な思考能力や問題発見・解決能力を涵養することが期待される。	西暦奇数年度開講。 01KA102と同一。 2020年度開講せず。
OAA3001	哲学プラクティスA	2	1.0	1	春AB	水4	人社 A207	五十嵐 沙千子, 保呂 篤彦, 井川 義次, 津崎 良典	ワールドカフェやオープン・スペース・テクノロジー(OST)などの手法を用いつつ、毎回、現代社会のさまざまな問題や各人が抱えている実存的な問題などをテーマにして、哲学カフェの形式で哲学的な対話を実践する。これを通して、哲学カフェの作り方やファシリテーションの方法の基礎を学び、自らそれを実践する力を身につけるとともに、開かれた態度で他者の話を聞く態度、自らの考えのもつ限界や偏見に気づき、他者との対話を通して考えを深めていく態度といった哲学の実践にとって本質的な姿勢を身につけるよう努める。特にこのAの授業では、心を開き、自ら率直に語り、他者の言葉を謙虚に聞く、対話の基本的態度を身につけるよう努める。	02DBT50と同一。
OAA3002	哲学プラクティスB	2	1.0	1	秋AB	水4	人社 A207	五十嵐 沙千子, 保呂 篤彦, 井川 義次, 津崎 良典	ワールドカフェやオープン・スペース・テクノロジー(OST)などの手法を用いつつ、毎回、現代社会のさまざまな問題や各人が抱えている実存的な問題などをテーマにして、哲学カフェの形式で哲学的な対話を実践する。これを通して、哲学カフェの作り方やファシリテーションの方法の基礎を学び、自らそれを実践する力を身につけるとともに、開かれた態度で他者の話を聞く態度、自らの考えのもつ限界や偏見に気づき、他者との対話を通して考えを深めていく態度といった哲学の実践にとって本質的な姿勢を身につけるよう努める。特にこのBの授業では、実際の哲学カフェにおいてファシリテーターを務め、対話をリードする経験を積む。	02DBT51と同一。
OAA3003	言語対照論	1	1.0	1・2	秋AB	金2	人社 A201	大矢 俊明, 佐々木 勲人	多様性と普遍性の観点から言語を対照することによって、言語間の違い、個別言語の深層を探る手法を考える。	西暦偶数年度開講。
OAA3004	言語資料論	1	1.0	1・2					史料、コーパスなどの言語資料について学ぶことによって、それらによって実証的な研究を行う手法を考える。	西暦奇数年度開講。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
0AA3005	文献資料学	1	1.0	1・2	春C	火5,6	人社A207	馬場 美佳, 佐野 隆弥, 秋山 学, 吉森 佳奈子, 稀代 麻也子	文学作品を研究するさいの基礎となる文献資料の扱い方について講義を行う。	
0AA3006	比較文学	1	1.0	1・2	春C	月5,6	人社A202	谷口 孝介, 青柳 悦子, 増尾 弘美, 加藤 百合	地域や言語を横断するかたちで文学研究をおこなうための方法について学ぶ。	
0AA3007	表象文化論	1	1.0	1・2	秋A	集中	人社A207	ラフォンテーヌ アンドレ, ヘーゼルハウス, ヘラト, 小川 美登里, 齋藤 一	文学作品のみならず広く文化事象をテキストとして解析する方法について講義を行う。	使用言語は英語及び日本語。 10/10-10/11
0AA3008	現代文化学基礎I	1	1.0	1	春AB	月2	人社A202	畔上 泰治, 濱田 真, 廣瀬 浩司, 対馬 美千子, 山口 恵里子, 江藤 光紀	この授業は現代文化研究に不可避の「トピック」を設定し、旧来の方法論を総合人間学の視点から批判的に問い直し、新たな研究領域と価値を切り開く能力を養成することを目的としている。授業は現代文化学サブプログラム担当教員によるオムニバス形式(全10回)で実施する。諸条件が複雑に絡み合う現代文化を深く研究するために不可欠となっている協働研究の状況にも触れる。受講者には全授業の最後にレポートの提出が求められる。	
0AA3009	現代文化学基礎II	1	1.0	1	秋AB	月2	人社A202	竹谷 悦子, 吉野 修, 中田 元子, 宮崎 和夫, 馬籠 清子, 清水 知子, 佐藤 吉幸	この授業は現代文化研究に不可避の「トピック」を設定し、具体例を多様な角度から分析し、そこに生じる問題の創造的解決の能力と新たな知・価値を創造する力を養成することを目的としている。授業は現代文化学サブプログラム担当教員によるオムニバス形式(全10回)で実施する。諸条件が複雑に絡み合う現代文化を深く研究するために不可欠となっている協働研究の状況にも触れる。受講者には全授業の最後にレポートの提出が求められる。	
0AA3010	国際公共政策論	1	1.0	1・2	春AB	水2	3K220	赤根谷 達雄, 関根 久雄, ウラノ エジソン, ヨシアキ, 柏木 健一, 東野 篤子, 鈴木 創, 五十嵐 泰正	国際的価値の実現と国内的価値の保護との葛藤という現実的な課題に社会科学の立場から深く取り組み、国際社会における普遍的価値の理解を踏まえ、国際的な公共の利益に資するための最適な処方や有意義な提言を行うための思考力や研究能力を養成する。特に、政治学、社会学、国際関係論、政治経済学の分析視角から公共政策の実践と参画について深く考察する。	01DF107と同一。
0AA3011	日本政治と市民社会1	1	1.0	1・2	春AB	金2		山本 英弘	日本の政治や市民社会に関する日本語の文献を広く講読し、その内容を深く理解するとともに、社会科学における研究の方法等を修得する。とりわけ、比較という視座から日本の市民社会を相対化して捉えられるようになることを目指す。この授業では、市民社会に関する幅広い題材を取り扱う。	01DR490と同一。
0AA3012	Japan's Politics and Civil Society 1	1	1.0	1・2	秋AB	金2		山本 英弘	日本の政治や市民社会に関する英語の文献を広く講読し、その内容を深く理解するとともに、社会科学における研究の方法等を修得する。とりわけ、比較という視座から日本の市民社会を相対化して捉えられるようになることを目指す。この授業では、市民社会に関する幅広い題材を取り扱う。	01DR491と同一。 英語で授業。
0AA3013	環境とマクロ経済学1	1	1.0	1・2	春AB	水1		生藤 昌子	本講義では持続可能な開発・経済成長の分析に必要な基礎的な経済成長理論であるソロー・スワンモデルを習得する。主に物的・人的資本蓄積、人口、生産性、技術進歩に焦点を当てて経済成長の決定要因を学び、生産要素としての自然資源の重要性を理解する。さらに経済成長が環境に影響を与え、環境の質が生産性に大きく影響するメカニズムを学ぶことにより、持続可能な開発・経済成長において人的資本蓄積と技術進歩の重要性についての理解を深めることを目標とする。	01DR256と同一。
0AA3014	The Environment and Macroeconomics 1	1	1.0	1・2	秋A	水1,2		生藤 昌子	本講義では持続可能な開発・経済成長の分析に必要な基礎的な経済成長理論であるソロー・スワンモデルを習得する。主に物的・人的資本蓄積、人口、生産性、技術進歩に焦点を当てて経済成長の決定要因を学び、生産要素としての自然資源の重要性を理解する。習得した経済成長理論をもとに様々な環境問題と持続可能な成長のための環境政策を分析・議論する能力を身につけることを目標とする。	英語で授業。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
0AA3015	地域研究論	1	1.0	1・2	春AB	水1	8A409	茅根 由佳, 箕輪 真理, ウラノ エジソン, ヨシアキ, 臼山 利信, 柏木 健一, ダダバエフ テイムール, 塩谷 哲史, 堤 純, 毛利 亜樹	世界の諸地域の特質とともに地域を解明する枠組み等について、人文・社会科学の視点からアプローチし、地域研究の在り方をオムニバス講義を通して学ぶ。また、ラテンアメリカ、東アジア、東南アジア・オセアニア、ロシア・ユーラシア、中東・北アフリカを含む世界各地域を、政治学、経済学、歴史学、地理学、言語学の分析視角から総合的・学際的に理解することを目指す。	01DP502と同一。